

先生方の声に応じて充実・レベルアップした「鑑賞編」

新版『美術資料』を実際に手に取られた先生方からのご意見やご感想を、横田学先生のコメントとあわせて紹介します。



よこ た まなぶ

横田学先生

プロフィール

これまでに、京都市立芸術大学教員(2002～2020年)、京都府立学校教諭、京都府教育庁指導部学校教育課指導主事、高等学校学習指導要領解説作成協力者(文部科学省)、評価規準研究開発協力者(国立教育政策研究所)、中央教育審議会教育課程部会芸術ワーキンググループ委員などに携わる。現・京都市立芸術大学名誉教授。



○原寸大美術館 阿修羅像(鑑賞編のとびら) P.102-103

原寸大の阿修羅像の顔は、造形による感情表現を読み解く学習の素晴らしい題材ですね。「大きさのイメージ」による作品の大きさ比べは、美術作品を鑑賞する時のサイズ感の大切さをあらためて実感しました。

コンピュータやタブレットを使用する機会が多くなり、必要に応じて鮮明かつ簡単に見たい画像の拡大ができるようになってきました。



しかし、実際に実物の作品と向き合うと、その大きさだからその造形的な表現なのか…と納得することもあります。作品の表現技法とその効果、大きさの関係を実感し、複数の作品同士や身の回りの具体的なものとの大きさを比べることも鑑賞のひとつです。

○ジャポニズムにひらめきを得た P.116-117

ジャポニズムは中学校美術では定番の鑑賞題材です。日本の文化が西洋の文化に影響を与えたという一方的な内容で終わってしまいがちですが、「日本・西洋の相互の影響」は社会科の文明開化との関係から大切ですね。



生徒たちにとって日本と西洋の歴史は繋がりにくいものです。今回の改訂では、これまでの『美術資料』で示してきた「ジャポニズム」と「西洋との出会い」の対となる2つのテーマに、さらにそれらを繋ぐ内容として

P.117に「日本・西洋の相互の影響」(①)を加えました。なお、生徒が主体的に日本と西洋との関係を意識できるように、巻末の「美術のながれ(美術史略年表)」にあわせ、鑑賞編では関連ページの日本と西洋の歴史的な関係を確認できる略年表(②)を各ページの下部に配置しています。



○形と色の冒険 P.120-121

印象派以降の美術の作品については、テレビや印刷物、美術館の展覧会などでも見る機会が多いのですが、その表現の良さや面白さを伝えるのが意外と難しい。作品だけでなく図解による説明などがあるので授業で役立ちそうです。

美術の歴史に関わる学習といえば、〇〇主義、〇〇イズムといった美術の様式に関する用語が目が向けられがちです。学習指導要領にも



示されているように、美術の授業で身に付ける知識は、「対象や事象を捉える造形的な視点」です。

用語を丸暗記するのではなく、作品の形や色などの動きに気付いたり、よさや美しさなどを感じ取ったりすることができるようになることが求められています。その手がかりとして図解などを役立ててほしいものです。

〇形と色の探求 P.122-123

「抽象」については指導が難しい内容です。改訂前は表現編の「抽象絵画を描く」でしたが、鑑賞編の「形と色の探求」になって、指導しやすくなったように思います。



「抽象」という概念は、世の中の様々な場面に関わり、多くの教科で学ぶ内容です。その理解は、社会で生きて働く力としてとても大切なものです。美術の指導では、特に視覚に訴える絵画や彫刻などを対象として、実感的に捉え・考えることができるというメリットがあります。



〇暮らしを心豊かにするデザインの力 P.152-153

「はさみ」の鑑賞は、生徒にとって身近なものを鑑賞することで、生活に生きるデザインを感じ取らせることができます。1年生を対象に、各自持参したはさみで鑑賞会をおこなったところ、授業が深まりました。ユニバーサルデザイン、インクルーシブデザイン、サステナブルデザインなどの事例はSDGsと関連して気付かせられそうです。



このプロダクトデザインのページは、生徒に身近な内容にすることや、防災や環境などの社会の今日的課題と関わる「求められるデザイン」などの視点で大きく改訂しています。デザインの鑑賞は、生徒一人一人が環境や安全など、自らの暮らしをより良くすることに繋げる消費者教育の役割も担っています。



横田先生への質問



今の学習指導要領のポイントは、「表現したり鑑賞したりする資質・能力を相互に関連させながら育成することを重視すること」だと言われていますが、『美術資料』はなぜ「表現」と「鑑賞」に分かれているのですか。



『美術資料』は、実際の美術の授業で活用しやすいように、「美のガイダンス」、「表現」、「鑑賞」の3部構成にしています。「美のガイダンス」は、学習指導要領の〔共通事項〕に対応し、表現及び鑑賞の学習において共通に必要な「知識」に関わる内容を、「表現」は主に「技能」に関わる内容を、「鑑賞」は特に「美術文化」に関わる内容として構成しています。美術の「思考力、判断力、表現力」は、『美術資料』全体に関わっており、「美のガイダンス」、「表現」、「鑑賞」の内容を関連させて学習できるように、参照ページを示すリンクを随所に配置しています。



ページ右下にある二次元コードから、補助資料にアクセスできるようですが、どのような学習に活用できるのでしょうか？



彫刻の3Dモデルによる360°ビューや建築の360°ビュー、参考作品、ワークシートなどを見ることができます。電子黒板やプロジェクタを使った一斉指導や、タブレットなどを使ったグループディスカッションでの鑑賞の題材として活用できます。また家庭での発展的な学習教材の利用など、学校や生徒の実態に応じた様々な活用を期待しています。先生方の実践例や内容の充実に向けたご意見などもぜひお聞かせください。

秀学社の美術学習サポート

授業だけでなく家庭学習などにもご活用ください。

- 『美術資料』の詳細や、ワークシートなど各種ダウンロード資料を提供しています。

秀学社Webサイト
<https://www.shugakusha.co.jp/>



まなび!net へのご意見や
著者へのメッセージ、ご質問など、
「お問い合わせフォーム」よりお気軽にお寄せください。

お問い合わせフォーム **ココから!**
https://www.shugakusha.co.jp/form_otoiawase/

先生の声をお聞かせください。

